

## 息子がいたから、 ほんとうの親になれた。

秋田教会 澤井唯至さん

澤井さんは自分の意見を一方的に押し通すため、妻と口論が絶えなかった。子ども三人のうち二男は両親のいがみ合いに強いストレスを感じ、心を閉ざしてしまう。不登校、昼夜逆転の生活、借金…澤井さんはことあるごとに叱責し続けた。その二男も結婚して子宝に恵まれたが、またしても借金。返済のため妻子を残し、愛知県の自動車工場で働き始める。澤井さんは心配のあまり何度も電話するが、口から出てくるのは叱責ばかり。ついに音信不通になってしまう。1年ほど経過した頃、「元気であればそれでいい」とメールを送るとすぐに返信があった。そこには、自身の過ちを恥じ、孤独や不安に耐えながら生きてきたことが書かれていた。そんな二男の努力や気持ちを理解せず、意見を押しつけてばかりいたことを謝った。すると二男は「許してやる、と言うと謝ったことで終わりになってしまうから、あえて許さないことにする」と屈託なく答えた。それからは共感したり、励ましたりすることに努め、あたたかな親子関係を取り戻している。澤井さんは、「あえて許さない」という二男の言葉を胸に刻み、自責の念を忘れずにつねに自らを省みて生きている。



## 人に「伝える」と「つづいて」

私たちは、自分がよくわからないことを人に伝えることはできません。また、人にものを伝えるには、それなりの理解が必要です。ところが、私たちの知識や経験の量はほんのわずかです。そうすると、人に何か伝えようとするときに大事になるのは、「自分は何も知らない」という謙虚な姿勢ではないでしょうか。

「教えよう教えようとすればするほど智慧の泉は涸れ、学ぼう学ぼうとすると、智慧の泉はこんこんと湧いてくる」と聞いたことがあります。伝える内容が何にせよ、教えよう、伝えようという気持ちよりも、相手の声にひたすら耳を傾け、学ぼうとする姿勢のなから、相手によく理解してもらえる言葉や心くばり、すなわち自他をよりよく生かす智慧が湧いてくるのだと思います。

# 立正佼成会